

小樽協会病院 臨床研修プログラム



令和 8 年度



正式名称 社会福祉法人 北海道社会事業協会 小樽病院

〒047-8510 北海道小樽市住ノ江 1 丁目 6 番 15 号

(代表) TEL 0134-23-6234 FAX 0134-33-7752

ホームページ <https://www.otarukyokai.or.jp>

社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院

小樽協会病院臨床研修プログラム

R8.4.1開始

目次

1	理念	2ページ
2	基本方針	2ページ
3	研修プログラムの特色	2ページ
4	プログラム責任者	3ページ
5	研修委員会名簿	3ページ
6	指導医名簿	4ページ
7	研修を行う施設	4ページ
8	研修を行う診療科	5ページ
9	研修医ローテーション	6ページ
10	研修指導と評価	7ページ
11	臨床研修病院群の想定時間外・休日労働時間	8ページ
12	院内施設環境	8ページ
13	研修医の処遇	9ページ
14	定員	10ページ
15	応募・お問合せ	10ページ
16	交通案内	11ページ
17	診療科別プログラム	
別添	別紙 1 「研修医評価票ⅠⅡⅢ 評価項目」	
	別紙 2 「症例要約レポート用紙」	
	別紙 3 「一般外来・在宅医療研修の実施記録表」	
	別紙 4 「研修医評価票 360度評価」	
	別紙 5 「臨床研修申込書」	

1 理念

- ◎医師としての人格を涵養する。
- ◎地域・社会に貢献する医師を育てる。
- ◎プライマリ・ケアの基本的な診療能力を育てる。

2 基本方針

- 1．医師として必要な、知識・技能・態度・判断力などの基本的臨床能力を修得する。
- 2．患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立することができる。
- 3．緊急を要する疾病や頻度の高い症状・病態に対する初期診療能力を修得する。
- 4．慢性疾患患者や高齢者、さらには末期患者への総合的な医療を理解し、診療計画に参画できる。
- 5．患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、診療録やその他の医療記録を適切に作成できる。
- 6．医療チームの構成員としての役割を理解し、保険・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調できる。
- 7．患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け危機管理に参画する。
- 8．保険診療や医療に関する法令を遵守できる。
- 9．生涯にわたる自己学習の習慣を身に付ける。

3 研修プログラムの特色

当院研修プログラムでは、研修医1年目に必修科目である内科、救急（麻酔科）※救急12週のうち4週は麻酔科、8週は2年間で40回以上の日当直研修を行います。外科、小児科、産婦人科をローテートし、医師としての基礎を身に付けます。

研修医2年目には、必修科目である地域医療4週（一般外来1週・在宅診療1週を含む）、精神科4週を行い、残りの44週は研修医個人の希望を考慮し、専門性を重視した診療科や、経験の不足を補うための診療科を選択できるプログラムを用意しています。

院内のその他の診療科はもちろん、当院にない診療科は他病院で研修することができます。（原則4クールまでの上限あり）

当院は診療科こそ限られてはおりますが、協力病院との連携のもと、より濃い診療経験、知識、技術、プロフェッショナリズムの習得を目指し、また、研修医個人を重視した柔軟なプログラムを目指しています。

4 プログラム責任者

所属 社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院
 役職 院長
 氏名 宮本 憲行

5 研修委員会名簿 (R6年度年)

氏名	所属	役職	備考
宮本 憲行	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	院長	臨床研修病院管理者・プログラム責任者・研修管理委員長
進藤 学	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	研修管理委員
高木 千佳	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	研修管理委員
木村 弘人	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	事務部長	研修管理委員
濱田 奈緒子	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	看護部長	研修管理委員
山田 史郎	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	循環器科部長	研修管理委員
辰巳 正純	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	外来診療部長	研修管理委員
石川 慶大	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	呼吸器外科部長	研修管理委員
黒田 敬史	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	産婦人科部長	研修管理委員
山根 真央	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	麻酔科部長	研修管理委員
橋本 功二	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	整形外科部長	研修管理委員
寺田 修治	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	診療技術部長	研修管理委員
小松 加奈	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	薬剤科長	研修管理委員
渡辺 直輝	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	画像診断科長	研修管理委員
大川 直之	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	総務課課長	研修管理委員
中垣 卓	医療法人勉仁会 東小樽病院	院長	研修実施責任者
中井 義仁	医療法人社団 三ツ山病院	院長	外部委員
有村 佳昭	小樽市立病院	院長	研修実施責任者
和田 卓郎	済生会小樽病院	院長	研修実施責任者
平野 聡	北海道大学病院	卒後臨床研修センター長	研修実施責任者
渡辺 敦	札幌医科大学附属病院	病院長	研修実施責任者
蔵前 太郎	社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院	診療部長	研修実施責任者
青柳 勇人	社会福祉法人北海道社会事業協会帯広協会	副院長	研修実施責任者

6 指導医名簿

担当分野	氏名	所属	役職	臨床年数
内科	宮本 憲行	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	院長	36年
外科（一般外来）	進藤 学	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	29年
内科	高木 千佳	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	35年
外科（整形外科）	橋本 功二	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	整形外科部長	21年
小児科（一般外来）	辰巳 正純	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	外来診療部長	28年
病理	飛岡 弘敏	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	病理診断科医師	37年
麻酔科（救急部門）	山根 真央	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	麻酔科部長	25年
内科	長井 和彦	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	病棟診療部長	29年
外科（呼吸器外科）	石川 慶大	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	呼吸器外科部長	25年
外科（消化器外科）	田本 英司	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	消化器外科部長	28年
産婦人科	黒田 敬史	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	産婦人科部長	18年
小児科（一般外来）	新谷 紀享	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	小児科医長	14年

7 研修を行う施設

診療科	研修病院または施設名	期間
内科	小樽協会病院、小樽市立病院、済生会小樽病院	24週
外科（一般外来）	小樽協会病院	4週
救急（麻酔科）	小樽協会病院、小樽市立病院	12週
小児科（一般外来）	小樽協会病院	4週
産婦人科	小樽協会病院	4週
精神科	小樽市立病院	4週
地域医療	東小樽病院、済生会小樽病院、余市協会病院	4週
選択科	小樽協会病院、帯広協会病院（一般外来） 小樽市立病院 済生会小樽病院 北海道大学病院 札幌医科大学附属病院	56週

※当院だけでは不足する研修分野については協力型病院、協力型施設で研修を行います。

※救急12週のうち4週は麻酔科、残り8週は2年間で40回以上の日当直研修を行います。

8 研修を行う診療科

協力型病院・協力型施設と連携して、1年間ないし2年間の研修の場を提供します。

【研修担当診療科】

内科（場合により協力型病院でも実施）

外科

救急（麻酔科）（場合により協力型病院でも実施）

産婦人科

小児科

病理診断科

整形外科

精神科（小樽市立病院）

地域医療（東小樽病院または済生会小樽病院または余市協会病院）

【研修医1年目】

必修科目：内科・救急・外科・小児科・産婦人科

自由選択

【研修医2年目】

必修科目：地域医療・精神科

自由選択

*自由選択科について

循環器科・外科・産婦人科・小児科・救急（麻酔科）・病理診断科・整形外科（R6.4時点）

その他、2年目には北海道大学病院または札幌医科大学附属病院で短期研修（逆たすき掛け研修）の選択も可能です。

短期研修は原則上限4クールまで選択可能となっています。

※原則1年目は院内で研修を行い、2年目より短期研修（逆たすき掛け研修）を選択できます。

※状況により各診療科の研修時期が変更となる場合もあります。

9 研修医ローテーション

ひとつの診療科につき、4週以上のブロック研修を基本とした研修ローテーションを組みます。
協力型病院・協力型施設での研修となる精神科及び地域医療は、原則4週とします。
必修科目の他、1年目研修は12週、2年目研修では44週の自由選択期間を設けています。

<1年目 研修ローテーション例>

※研修初日はオリエンテーションに参加していただきます。

4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
内科 (循環器科・消化器内科)						救急 麻酔科	小児科	外科	産婦 人科	自由選択		
※救急残り8週は2年間で40回以上の日当直研修を行います。												

必修科目： 内科24週

外科4週、小児科4週、産婦人科4週、救急（麻酔科）4週

※内科研修は当院で研修内容が不足する場合、協力型病院でも実施します。

※救急は状況に応じて協力型病院である小樽市立病院でも行います。

自由選択： 12週（当院で選択可能な診療科に限る）

<2年目 研修ローテーション例>

4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
精神科	地域医療	自由選択										
※救急残り8週は2年間で40回以上の日当直研修を行います。												

必修科目： 地域医療4週（東小樽病院、済生会小樽病院、余市協会病院）

精神科4週（小樽市立病院）

自由選択： 44週（当院で選択可能な診療科の他、協力型病院での短期研修を選択可能。）

※短期研修は原則4クールまでの上限あり。

<その他>

* 一般外来研修は、平行研修として小児科と外科において2週ずつ実施し、また希望により協力型病院（帯広協会病院総合診療科）にて4週実施、合計4週以上の研修を行います。

* 研修において、不足する部分については自由選択で補います。

* 研修時期については、指導医と相談のうえ、時期の変更が可能です。

（状況により各診療科の研修時期が変更となる場合もあります。）

* 基本的には到達目標もありますので、各診療科を最低4週は行っていただきます。

* 各診療科をローテート中、院内で開催される研修会に参加します。

* 協力型病院での研修については、他施設で行いますので時期の変更は原則できません。

* 研修到達目標は2年間とします。

10 研修指導と評価

- ① 研修医は各診療科ローテート中または終了後、速やかに卒後臨床研修医用オンライン臨床教育評価システム（PG-EPOC）に、研修医評価票ⅠⅡⅢの自己評価を登録。経験すべき症候（29症候）並びに経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）について、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含む病歴要約を日常業務において作成登録し、指導医が評価します。
 - *別紙-1 研修医評価票ⅠⅡⅢ 評価項目 参照
 - *別紙-2 病歴要約レポート用紙 参照
- ② その他、経験すべき手技等の経験や、感染対策・予防医療・虐待への対応・社会復帰支援・ACP・臨床病理検討会（CPC）などの研修会やチーム医療に、積極的に参加していただきます。
- ③ 一般外来を実施した場合は、一般外来・在宅医療の実施記録表に記録し、指導医の実施確認の署名をもらい記録します。
 - *別紙-3 一般外来・在宅医療の実施記録表 参照
- ④ 指導医は研修医からの評価依頼を受けた後、PG-EPOCまたは各評価用紙にて評価を行います。
- ⑤ 指導医からの評価の他、360度評価（看護師、コメディカルからの評価）を行い、評価内容によって面談を実施します。
 - *別紙-4 研修医評価票（360度評価） 参照
- ⑥ 定期的に形式的評価を行い、研修状況等をフィードバックすることで、すべての項目を到達・経験できるようにします。
- ⑦ 2年間の研修修了までに、研修医評価票ⅠⅡⅢはレベル3以上を目標とし、経験すべき症候（29症候）、経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）は全ての経験が必須となります。

<経験すべき症候（29症候）>

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

<経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）>

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

11 臨床研修病院群の想定時間外・休日労働時間（令和5年度年次報告より）

病院名	種別	時間外・休日労働 最大想定時間数 (年単位換算)	おおよその 当直・日直回数 (宿日直許可の有無)	時間外・休日労働 前年度実績 (年単位換算)
小樽協会病院	基幹型	1名につき最大360時間	月3回程（有）	約360時間
北海道大学病院	協力型	1名につき360時間	救急科・集中治療部及び産科 (周産期)・小児科(新生 児)ローテーション期間中に で月4回程 (同ローテーション期間中は 変形労働間制)	1名につき約132時間
札幌医科大学附属病院	協力型	200時間	月4回(宿直週1回、日 直月1回上限)（有）	約100時間 (2023年度)
帯広協会病院	協力型	270時間	月3回程（有）	240時間以内
小樽市立病院	協力型	500時間	月3回程(上限5回)（無）	約480時間 (2023年度平均)
東小樽病院	協力型	0時間	臨床研修医の当直・日直なし	0時間
余市協会病院	協力型	500時間	月4回程（有）	約450時間
済生会小樽病院	協力型	960時間	月1～2回程(申請準備中)	約360時間

12 院内施設環境

保育所環境	院内保育所	あり（利用料金負担あり）	
	時間	7時45分　～　17時30分	
	病児保育	なし	
	夜間保育	なし	
	研修医利用	可	
	※一時保育利用可		
院内環境	休憩場所	あり	
	授乳スペース	あり	
研修医のライフイベントの相談窓口		なし	
各種ハラスメントの相談窓口		あり	
		名称	ハラスメント相談窓口
		専任担当	2名

※その他、何かございましたら随時臨床研修担当までご相談ください。

13 研修医の処遇

	【 1年目 】				【 2年目 】	
常勤・非常勤別	常勤扱い					
手当	【基本給】 550,000円				【基本給】 600,000円	
勤務時間	8時30分　—　17時10分					
時間外	なし　※基本給に想定30時間の時間外含					
有給休暇	20日間				20日間	
休暇	週休二日制 年末年始休暇、盂蘭盆、リフレッシュ休暇					
当直	約3回／月　（1回　16,000円）					
研修医の宿舍	病院で賃貸マンションを用意 賃貸マンションを借り上げるため現物支給 ※一部本人負担あり（20,000円～30,000円程）					
病院内個室	研修医ブース					
社会保険 労働保険	政府管掌健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険法の適用あり 雇用保険あり、医師賠償責任保険（病院、個人は任意）					
健康管理	入職時健診、健康診断年1回、個人線量毎月測定					
外部の研修活動	学会、研修会などへの参加可能（参加費用支給あり）					
産前・産後休暇 育児休業	実 績	女性	1年次	0　名	2年次	0　名
		男性	1年次	0　名	2年次	0　名
* 産前・産後休暇 出産（予定）日を基準に、産前7週間（双子等多胎妊娠の場合は14週間）以内、産後8週間の休暇取得可能						
* 育児休業 1歳に満たない子を養育するために、育児休業を開始する1ヶ月前までに請求、承認を得た上で休業することが可能 ※保育所に入所できない等やむを得ない事情がある場合は、まずは1歳半、更に2歳に到達するまでの延長が可能						

※公休を除くいずれの休暇休業も、研修期間中90日を上限とする休止期間に含まれます。

※研修期間中の研修医の診療アルバイトは禁止されています。

14 定員

募集定員 3名

(最大 1年次研修医3名、2年次研修医3名 計6名となります。※たすき掛け研修医を含めない)

15 応募・お問い合わせ

当院では、毎年7月より初期臨床研修の申込みを受け付けております。

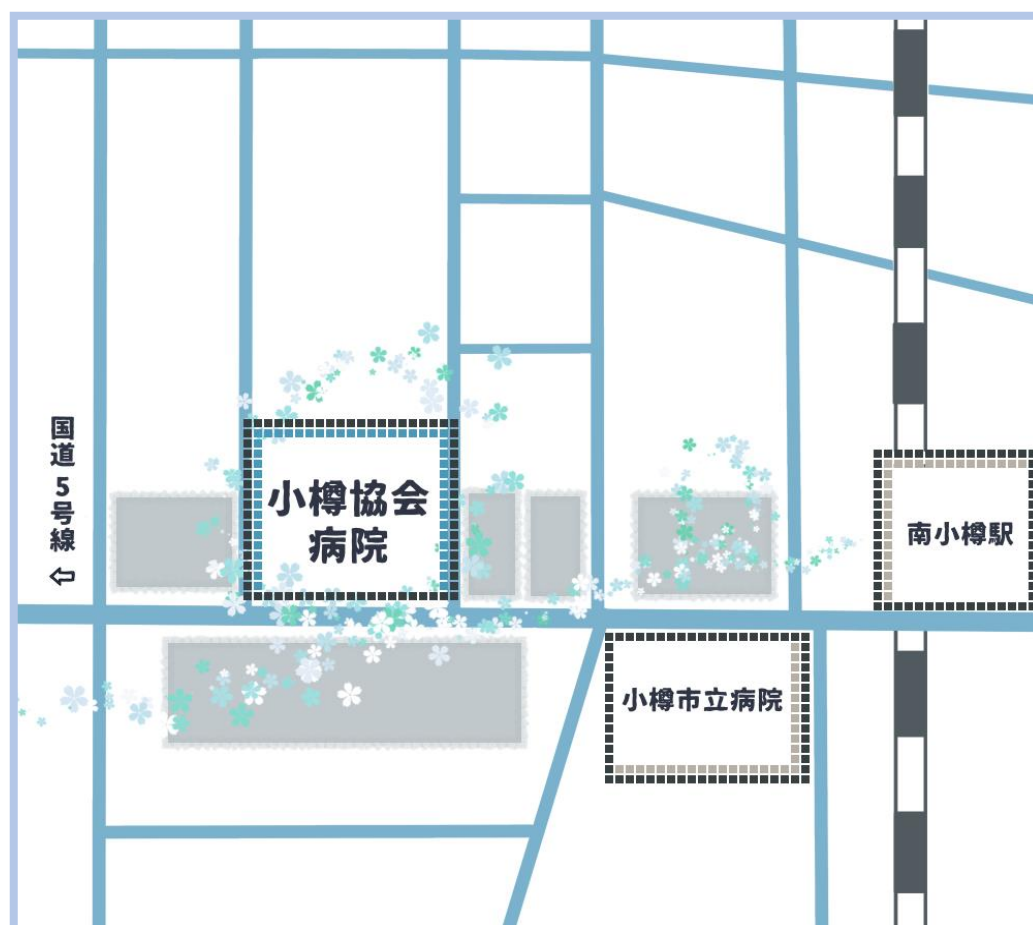
採用試験にお申込みされる方は、募集要項をご確認のうえ、当院HPの臨床研修申込フォームより申込み、必要書類を宛先まで持参またはご郵送ください。

応募期間	毎年7月から受付開始 ※応募期間の詳細は当院HPをご確認ください。
応募資格	医師臨床研修マッチングに参加する方（医師臨床研修マッチング協議会）かつ 医師国家試験を受験する方又は平成16年度以降の医師国家試験に合格した方
必要書類	・履歴書（規定の様式はありません。） ・卒業（見込み）証明書 ※発行が遅れる場合はお申し出ください。 ・臨床研修申込書（※別紙-5 臨床研修申込書 参照） ※試験にお申込みいただいた際にもお送りさせていただきます。
選考方法	プログラム責任者および研修管理委員による面接
試験日	随時実施 ※お申込みの際に希望日をお知らせください。
その他	病院見学も随時実施しております。 当院HPの病院見学申込よりお申込みください。 ※状況によりお断りする場合がありますのであらかじめご了承ください。
問合せ先	社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院 総務課 臨床研修担当 【住所】 〒 047-8510 北海道小樽市住之江1丁目6番15号 【電話】 0134-23-6234 【FAX】 0134-33-7752 【mail】 info@otarukyokai.or.jp 【URL】 http://www.otarukyokai.or.jp/

※当院は日本医師臨床研修マッチング協議会のマッチング・プログラムに参加しております。

16 交通案内

- 最寄り駅 JR 南小樽駅より徒歩5分
- 最寄りのバス 住吉神社前バス停より徒歩5分
小樽協会病院前バス停より徒歩3分



※当院駐車場は患者さま用となっておりますので、お車での来院はご遠慮ください。

17 小樽協会病院臨床研修プログラム 診療科別プログラム

目次

- ◇ 循環器科 2～3ページ
- ◇ 外科 4～5ページ
- ◇ 小児科 6ページ
- ◇ 産婦人科 7ページ
- ◇ 麻酔科（救急） 8～9ページ
- ◇ 整形外科 10ページ
- ◇ 病理診断科 11ページ
- ◇ 各診療科経験項目一覧 12～13ページ
(症候・疾病・病態)

【 循環器科 】

1 指導医

院長	宮本 憲行	R4.12.11 プログラム責任者講習会受講 H20.12.14 指導医講習会受講
副院長	高木 千佳	H29.9.23 指導医講習会受講
病棟診療部長	長井 和彦	H30.11.10 指導医講習会受講
医長	夏井 宏征	指導医講習会受講予定

2 概要と研修目標

常勤医師5名で循環器疾患を幅広く診療している。（外来患者数88名/日、入院患者数57名/日）

研修目標は、患者さんの診療の仕方、心雑音の聴診、心電図の読み方、心エコー検査、負荷心電図検査、ホルター心電図、心臓カテーテル検査を習得し、経皮的冠動脈形成術・経皮的末梢血管形成術、電氣的焼灼術、恒久的ペースメーカー植込み等を体験する。

経皮的人工心肺（PCPS）・大動脈内バルーンポンピング（IABP）を用いた高度救急治療を体験する。

循環器のみならず、内科全般にわたって、全身管理を習得する。

3 研修内容

* 1週間の研修予定

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	病棟	病棟 外来	不整脈 電氣的焼灼術	病棟	病棟 外来
午後	カテーテル	カテーテル	不整脈 電氣的焼灼術	カテーテル	不整脈電氣的 焼灼術
その他	カテーテル カンファレンス	カンファレンス 循環器勉強会		カテーテル カンファレンス	カンファレンス

* 研修内容詳細

外来研修：新患外来…指導医とともに問診・診察を行い、検査結果を踏まえて今後の方針を立てる。

救急外来…指導医とともに、救急搬送の患者さんに対する初期対応を行う。

病棟研修：指導医とともに、入院患者さんを受け持ち、診察の仕方、心雑音の聴取（共聴用聴診器を用いて指導医と同時に聴診を行う）、循環器疾患の病態生理、診断、治療法について学習する。

循環器疾患の理解を深めるために、心電図、心エコー検査、ホルター心電図、心臓カテーテル検査等の適応・禁忌・中止基準等を理解し、かつ習得に努める。

経皮的冠動脈形成術（PCI）、経皮的末梢血管形成術（EVT）、不整脈電氣的焼灼術、ペースメーカー植込み等を体験する。

大動脈内バルーンパンピング（IABP）、経皮的人工心肺（PCPS）を用いた循環器の救命救急治療を体験する。

- その他：
- ・循環器病棟カンファレンス 2回/週
（医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師、地域医療福祉士）
 - ・心臓カテーテルカンファレンス 2回/週 （医師）
 - ・研修医及びコメディカルを対象とした循環器勉強会 1回/月
（医師、看護師、臨床工学技師、生理検査技師、放射線技師）
 - ・心臓勉強会 2回/年
- * 紹介いただいた患者さんの経過報告

【 外科 】

- 1 指導医

副院長

進藤 学

H24.3.18 指導医講習会受講

呼吸器外科部長

石川 慶大

R5.2.19 指導医講習会受講

R5.10.22 プログラム責任者講習会受講

- 2 概要と研修目標

外科学の基本的手技、術前・術後管理を学び、手術の実際を体験し、臨床医としての基礎を習得することを目標とする。

- 3 研修内容

* 1週間の研修予定

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	病棟 (外来)	病棟 (外来)	病棟 (外来)	病棟 (外来)	病棟 (外来)
午後	手術	手術	手術	手術	手術
その他	病棟 カンファレンス				周術期 カンファレンス

* 研修内容詳細

外来研修： 1、問診を行い、診療録に記載する
2、必要と思われる検査をオーダーする
3、診断・治療・外科小手技・投薬を学ぶ

病棟研修： 1、手術患者の術前評価、手術適応、予定術式を検討する
2、急性腫瘍患者の化学療法の適応を検討する
3、終末期患者の緩和ケアを実践する
4、手術助手として様々な手術を経験する

その他： ・消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科の経験を積むことができる
・希望者には学会発表、論文執筆指導

【 小児科 】

1 指導医

外来診療部長
医長

辰巳 正純
新谷 紀享

H22.7.11 指導医講習会受講
R6.2.17 指導医講習会受講

2 概要と研修目標

救急外来で一般的に診ることになる小児症例について、最低限の対応ができる
その中で、小児科Consultを必要とするものを迷わない

3 研修内容

* 1週間の研修予定

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 ベビー回診	病棟回診 ベビー回診	病棟回診 ベビー回診	病棟回診 ベビー回診	病棟回診 ベビー回診
午後	外来 or 乳幼児健診 (外勤)	外来	外来 or 乳幼児健診 (外勤)	外来	外来 or 乳幼児健診 (外勤)
その他		周産期 カンファレンス		小児科 カンファレンス	

【 産婦人科 】

1 指導医

産婦人科部長

黒田 敬史

H28.1.31 指導医講習会受講

R6.10.20 プログラム責任者講習会受講

2 研修内容

* 1週間の研修予定

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	手術	外来 カンファレンス 1ヶ月健診	外来	手術	外来

* 研修内容詳細

外来研修：産科妊婦健診、婦人科一般外来に同席し、POMR型に課題を持って症例の臨床推論を行い、医師・助産師とフィードバックを行います。

病棟研修：入院患者の定期回診や、分娩対応。
手術にも積極的に参加します。

その他：看護学校の講義や小学校の保健授業への同行を通じ、地域におけるプレコンセプションケアの重要性を学ぶ機会を設けます。

【 麻酔科 】

1 指導医

麻酔科部長 山根 真央 H23.1.30 指導医講習会受講

2 概要と研修目標

指導体制： 麻酔科部長(麻酔科専門医)を中心にパートタイム勤務の医師が担当する。

研修の内容： 麻酔に関わる手技・術中管理

気道の評価と確保の手技

循環の評価と対応・循環作動薬の使用・超音波装置による心機能評価

呼吸の評価と対応・人工呼吸器、気管内挿管などの気道デバイスの使用、気管支鏡

各種静注薬（鎮静薬、鎮痛薬、筋弛緩薬などの使用）

各種カテーテル（中心静脈、PICC、胃管、動脈）の挿入手技

状況により経験できる症例：

重症患者の評価と管理（人工呼吸・持続血液透析・補助循環装置）

分娩麻酔（無痛分娩）

カテーテルアブレーションなどの手術室外の麻酔

3 研修内容

* 1週間の研修予定

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	手術室ミーティング 病棟回診 教科書輪読 手術	手術室ミーティング 病棟回診 教科書輪読 手術	手術室ミーティング 病棟回診 教科書輪読 手術	手術室ミーティング 病棟回診 教科書輪読 手術	手術室ミーティング 病棟回診 教科書輪読 手術
午後	手術	手術	手術	手術	手術

* 研修内容詳細

麻酔、集中治療、周産期麻酔に携わってきた麻酔科部長がマンツーマンで指導します。

年間麻酔件数は500件程度ですが、外科、呼吸器外科、産婦人科、整形外科の外傷、小児と、経験できる症例は幅広く、一般的な麻酔科の研修が可能です。

中規模の病院のため、各診療科部門に積極的に出向いてコミュニケーションをとるようにしています。

麻酔科部長は集中治療専門医の資格を有し、以前の勤務施設（札幌・道内の総合病院）では、心臓血管外科、泌尿器科、耳鼻科など当院にはない診療科の手術症例の経験もあります。

日々の症例に追われることは少ないですが、重症の緊急症例もあり、過不足ない麻酔科研修ができます。

超音波機器を心機能評価、各種神経ブロック、点滴確保に活用して診療を行っており、他科へ進んだ際も役立つと考えます。

また麻酔科部長はIT関係（ネットワーク、サーバーなど業務系のシステム管理）に関心・知識があり、機器を運用し日々の業務に役立てていますので、関心のある方は歓迎します。

北海道大学周術期医学講座（麻酔科）と連携した研修プログラムとなっています。

【 整形外科 】

1 指導医

整形外科部長

橋本 功二

指導医講習会受講予定

2 概要と研修目標

整形外科領域における緊急を要する疾患・外傷の診断と応急処置を習得する。

3 研修内容

* 1週間の研修予定

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	外来 手術	病棟 手術 カンファレンス	外来	外来 手術	外来 手術
午後	病棟 手術		病棟 手術	病棟 手術	外来

* 研修内容詳細

研修期間中に、大腿骨転子部骨折の手術が3件以上あった場合には、3件目以降の執刀をしてもらいます。

【 病理診断科 】

1 指導医

病理診断科医師 飛岡 弘敏

2 概要と研修目標

病理診断科の業務の流れを理解する。

手術・生検検査の取り扱いの基本を習得する。

病理組織診断の基礎を学び、実際に体験する。

3 研修内容

* 1週間の研修予定

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	・手術材料の病理標本の鏡検 ・病理組織標本作製の見学、実習	・手術材料の病理標本の鏡検 ・病理組織標本作製の見学、実習	・手術材料の病理標本の鏡検 ・病理組織標本作製の見学、実習	・手術材料の病理標本の鏡検 ・病理組織標本作製の見学、実習	・手術材料の病理標本の鏡検 ・病理組織標本作製の見学、実習
午後	・手術材料の切り出し ・指導医による解説、講義	・手術材料の切り出し ・指導医による解説、講義	・手術材料の切り出し ・指導医による解説、講義	・手術材料の切り出し ・指導医による解説、講義	・手術材料の切り出し ・指導医による解説、講義

* 研修内容詳細

特定の検体、臓器に絞るなど、希望に沿った研修内容のアレンジが可能です。

小樽協会病院研修プログラム 各診療科経験項目一覧
(必修 経験すべき症候29症候、経験すべき疾病26疾病・病態)

※各診療科研修中に経験可能な項目(状況により変動)

令和6年6月調査

「症候」、「疾病・病態」		診療科（基幹型臨床研修病院）							合計
		内科	外科	小児科	産婦人科	麻酔科	整形外科	病理診断科	
経験すべき症候：29症候	1 ショック	○	○		○	○	○		5
	2 体重減少・るい瘦	○	○	○			○		4
	3 発疹		○	○			○		3
	4 黄疸		○	○			○		3
	5 発熱	○	○	○	○		○		5
	6 もの忘れ	○	○				○		3
	7 頭痛	○	○	○	○		○		5
	8 めまい	○	○	○	○		○		5
	9 意識障害・失神	○		○	○		○		4
	10 けいれん発作		○	○	○		○		4
	11 視力障害						○		1
	12 胸痛	○					○		2
	13 心停止	○	○				○		3
	14 呼吸困難	○	○	○			○		4
	15 吐血・喀血		○				○		2
	16 下血・血便	○	○	○			○		4
	17 嘔気・嘔吐	○	○	○	○		○		5
	18 腹痛		○	○	○		○		4
	19 便通異常（下痢・便秘）	○	○	○	○		○		5
	20 熱傷・外傷		○				○		2
	21 腰・背部痛	○	○		○		○		4
	22 関節痛	○					○		2
	23 運動麻痺・筋力低下	○					○		2
	24 排尿障害（尿失禁・排尿困難）	○		○	○		○		4
	25 興奮・せん妄	○	○				○		3
	26 抑うつ	○			○		○		3
	27 成長・発達の障害			○					1
	28 妊娠・出産			○	○			○	3
	29 終末期の症候	○	○				○		3

※各診療科研修中に経験可能な項目(状況により変動)

「症候」、「疾病・病態」		診療科（基幹型臨床研修病院）							合計
		内科	外科	小児科	産婦人科	麻酔科	整形外科	病理診断科	
経験すべき疾病：26疾病・病態	1 脳血管障害						○		1
	2 認知症	○	○				○		3
	3 急性冠症候群	○							1
	4 心不全	○					○		2
	5 大動脈瘤	○							1
	6 高血圧	○			○		○		3
	7 肺癌		○					○	2
	8 肺炎	○	○	○			○	○	5
	9 急性上気道炎	○	○	○			○		4
	10 気管支喘息	○		○			○		3
	11 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	○	○				○		3
	12 急性胃腸炎	○	○	○			○	○	5
	13 胃癌		○					○	2
	14 消化性潰瘍		○				○	○	3
	15 肝炎・肝硬変		○						1
	16 胆石症		○					○	2
	17 大腸癌		○					○	2
	18 腎盂腎炎	○		○			○		3
	19 尿路結石	○					○		2
	20 腎不全	○					○		2
	21 高エネルギー外傷・骨折						○		1
	22 糖尿病	○	○	○	○		○		5
	23 脂質異常症	○		○			○		3
	24 うつ病	○	○		○		○		4
	25 統合失調症						○		1
	26 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）						○		1
合 計		36	33	23	16	1	46	8	163

※入院患者の数が年間2,700人未満の病院にあっては、「臨床研修の到達目標、方略及び評価」（別添）の経験すべき症候（29症候）及び経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）の研修を行ったことを記載した書類（様式A-28）を提出

評価票Ⅰ 「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価					
評価 レベル	1	期待を大きく下回る	3	期待通り	－ 観察の機会なし
	2	期待を下回る	4	期待を大きく上回る	

A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
A-2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する
A-3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
A-4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

評価票Ⅱ 「B. 資質・能力」に関する評価					
評価 レベル	1	臨床研修の開始時点で期待されるレベル (モデル・コア・カリキュラム相当)	3	臨床研修の終了時点で期待されるレベル (到達目標相当)	
	2	臨床研修の中間時点で期待されるレベル	4	上級医として期待されるレベル	

B-1. 医学・医療における倫理性 診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。
B-2. 医学知識と問題対応能力 最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
B-3. 診療技能と患者ケア 臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。
B-4. コミュニケーション能力 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。
B-5. チーム医療の実践 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。
B-6. 医療の質と安全の管理 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。
B-7. 社会における医療の実践 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。
B-8. 科学的探究 医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。
B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

評価票Ⅲ 「C. 基本的診療業務」に関する評価					
評価 レベル	1	指導医の直接の監督の下できる	3	ほぼ単独でできる	－ 観察の機会なし
	2	指導医がすぐに対応できる状況下 でできる	4	後進を指導できる	

C-1. 一般外来診療 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
C-2. 病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について入院診療計画を作成し患者の一般的・全身的な診療とケアを行い地域連携に配慮した退院調整ができる。
C-3. 初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。
C-4. 地域医療 地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

別紙-2

研修医氏名：		事務局確認	
		受領日	年 月 日

☐ 一般外来

☐ 在宅医療

☐ 経験すべき症候 29

☐ ショック ☐ 体重減少・るい痩 ☐ 発疹 ☐ 黄疸 ☐ 発熱 ☐ もの忘れ ☐ 頭痛 ☐ めまい
☐ 意識障害・失神 ☐ けいれん発作 ☐ 視力障害 ☐ 胸痛 ☐ 心停止 ☐ 呼吸困難 ☐ 吐血・喀血
☐ 下血・血便 ☐ 嘔気・嘔吐 ☐ 腹痛 ☐ 便通異常（下痢・便秘） ☐ 熱傷・外傷 ☐ 腰・背部痛
☐ 関節痛 ☐ 運動麻痺・筋力低下 ☐ 排尿障害（尿失禁・排尿困難） ☐ 興奮・せん妄 ☐ 抑うつ
☐ 成長・発達の障害 ☐ 妊娠・出産 ☐ 終末期の症候

☐ 経験すべき疾病・病態 26 ※少なくとも 1 症例は外科手術に至った症例を選択し、手術要約も併せて提出

☐ 脳血管障害 ☐ 認知症 ☐ 急性冠症候群 ☐ 心不全 ☐ 大動脈瘤 ☐ 高血圧 ☐ 肺癌 ☐ 肺炎
☐ 急性上気道炎 ☐ 気管支喘息 ☐ 慢性閉塞性肺疾患（COPD） ☐ 急性胃腸炎 ☐ 胃癌 ☐ 消化性潰瘍
☐ 肝炎・肝硬変 ☐ 胆石症 ☐ 大腸癌 ☐ 腎盂腎炎 ☐ 尿路結石 ☐ 腎不全 ☐ 高エネルギー外傷・骨折
☐ 糖尿病 ☐ 脂質異常症 ☐ うつ病 ☐ 統合失調症 ☐ 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

診療科名		年齢	歳	性別	☐ 男 ☐ 女
患者 ID		EPOC 症例 ID			

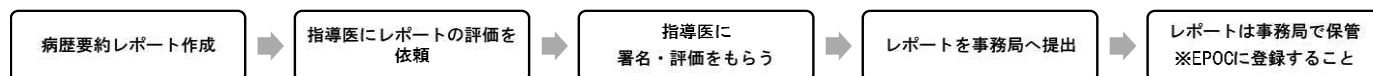
入院	・	外来	（受診日	年	月	日）
入 院 日	年	月	日	退 院 日	年	月 日
受持開始	年	月	日	受持終了	年	月 日

転 帰 : ☐ 治癒 ☐ 軽快 ☐ 転科（手術 有・無） ☐ 不変 ☐ 死亡（剖検 有・無）
 フォローアップ : ☐ 外来にて ☐ 他医へ依頼 ☐ 転院

下記事項が全て記載されているか確認し提出（☒をつける）
☐ 病歴 ☐ 身体所見 ☐ 検査所見 ☐ アセスメント ☐ プラン（診断、治療、教育） ☐ 考察等

評 価 :	可 ・ 不可（再提出すること） ・ 当科に該当せず
コメント:	
指導医署名:	

病歴要約レポート提出の流れ（レポート用紙を使用した場合）



※レポート用紙を使用しない場合は、日々電子カルテで病歴要約を作成し、指導医へ承認依頼をかけてください。

別紙-3

一般外来・在宅医療研修の実施記録表

事務局
確認欄

年 月 日 印

実施施設	
診療科	
研修医氏名	

《総計》	
一般外来	日
在宅医療	日

*① 実施した日の1日または0.5日の欄に☑を付けてください。

*② 実施した研修について一般外来または在宅医療に☑を付けてください。

*実施したローテーション終了時に指導医に署名をもらい、事務局までご提出ください。

研修医が記録

実施日 内容		月	日				
①	1日	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	0.5日	☐	☐	☐	☐	☐	☐
②	一般外来	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	在宅医療	☐	☐	☐	☐	☐	☐
病歴要約メモ							
実施日 内容		月	日				
①	1日	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	0.5日	☐	☐	☐	☐	☐	☐
②	一般外来	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	在宅医療	☐	☐	☐	☐	☐	☐
病歴要約メモ							
実施日 内容		月	日				
①	1日	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	0.5日	☐	☐	☐	☐	☐	☐
②	一般外来	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	在宅医療	☐	☐	☐	☐	☐	☐
病歴要約メモ							

指導医記入欄

上記の通り実施したことを確認しました。

令和 年 月 日

医師署名：

研修医評価票 360度評価

別紙-4

	事務局確認欄	年	月	日	印			
研修医氏名								
研修診療科								
研修期間	令和	年	月	日	～ 令和	年	月	日

【 評価 ： 2 達成 1 不十分 0 評価の機会なし 】

評価項目	内容	評価（○を記入）		
態度・姿勢	患者、家族、同僚、上級医への態度 挨拶、身だしなみ、責任感、協調性など	2	1	0
意欲・積極性	検査、処置、手術などに積極的に取り組む 疾患、検査、治療について自ら進んで学ぶ 検討会などに積極的に参加する	2	1	0
基本的診療	基本的な病歴聴取や全身観察などができる 各診療科ごとの診察ができる	2	1	0
基本的検査	基本的な検査（血液検査、X線検査など）ができる 各診療科ごとの検査ができる	2	1	0
基本的手技	基本的な手技（気道確保、採血など）ができる 各診療科ごとの手技ができる	2	1	0
基本的治療	基本的治療（薬物の理解、投薬、輸液など）ができる 各診療科ごとの治療ができる	2	1	0
医療記録	診療録に適切に記載できる 処方箋、診断書、紹介状などを適切に記載できる	2	1	0

その他特記事項（研修中の様子や連絡事項等）

※評価が “1 不十分” であった場合には必ず記入願います。

評価者署名欄

令和 年 月 日

(自署または印)

臨床研修申込書

別紙-5

社会福祉法人
北海道社会事業協会小樽病院
院長 宮本 憲行 殿

私は、貴病院において研修を受けたいので、下記のとおり
申し込みいたします。

申込年月日：令和 年 月 日

ふりがな			性別	配偶者
氏名	⑩		男・女	有・無
生年月日	昭和 平成 年 月 日生（ 歳）			
現住所	〒			
連絡先	電 話 (FAX)			
	携帯電話			
	E-mail			
上記以外の連絡先	(住所・電話・携帯電話等)			
卒業（予定）大学名		令和 年 月		
将来専攻したい診療科				
当院での研修を希望した理由				
※私は地域枠学生で ある ・ ない ○を記入してください。				
※マッチングユーザーID（ ）				

